

2025

北鹿の学び舎から⑦

— 学校紹介・活躍する修了生 —

学生時代の思い出

秋田職業能力開発短期大学校は1993年に開校しました。今回は、住居環境科の第2期生で、現在は大館市の花岡土建株式会社に建築部長として活躍されている三政孝太

さんに、学生時代の思い出を語っていただきました。

「一番印象に残っているのは球技大会です。他科の学生との交流ができ、クラスの団結力も高まりました。職員チームも参加して、勝敗に一喜一憂しながら盛り上がったのを覚えています。開校間もないため、学園祭や卒業研究などのすべてが手探りで、教職員と学生が一丸となって取り組んでいたことが印象的です」と語ってくれました。

身近でしたが、私は普通科出身で、入学当初は基礎知識がまったくありませんでした。建築法規や構造力学などの座学に加え、材料実験、建築施工、製図などの実習もありました。実際の工事現場にも足を運び、秋田桂城短期大学（現在の秋田看護福祉大学）の建設現場では現場管理について学び、秋田市立体育館の見学では設計担当者から詳しい説明を受けるなど、実践的な学びが多くありました」と振り返ります。こうした経験から、インターンシップ受け

花岡土建株式会社 建築部長

三政 孝太さん

秋田職能短大 住居環境科
(平成7年度卒)

入れ時には「学生さんが現場に興味を持てるよう心がけて

います」とのことでした。また、「実習や卒業研究で友達と切磋琢磨（せっさたくま）した時間は、私にとって貴重な財産です」とも語ってくれました。さらに、学生時代のアルバイト経験も役立っ

たそうです。「サービスマン」や接客や製造業で感じた安全意識は、現在の仕事に活かされています。今思えば、もっと広く世の中に目を向けていればよかったですね」と話してくれました。

卒業後も当校との関わりは続いています。自身のスキルアップのために、当校のCAD（コンピュータ上で設計や製図を行うツール）セミナーを受講したり、自身のお子さん達がジョブツアー（当校が主催した子供達の企業見学会で2008年から5年ほど実施）やラジオコンポート製作体験（当校が大館圏域産業祭で2008年に実施）などのイベントに参加したりと、家族ぐるみで関わっていただいています。「卒業アルバムを久しぶりに開いて、当時の未熟な自分の姿に照れを感じつつも、気持ちが若返ったような気がしました」と笑顔で語

っています。現在は施工管理を中心に、若手社員の育成にも力を入れています。「学生時代に学んだ建築の幅広い知識と技術は、日常の業務だけでなく、国家資格の取得にも大いに役立ちました。とはいえ、在学中はあまり熱心ではなかったため、社会人になってから学生時代の教科書を開く機会が多かったような気がします」と結んでいただきました。

職場で施工図の確認をする三政孝太さん

秋田職業能力開発短期大学校
住居環境科 特任教授
小笠原吉張